



「ぎまままに」川柳

今月のお題

思いやり

思いやり
渡る世間に 戦無し
月丘夢子

思いやり
皆を笑顔に 「ありがとう」
加藤正光

気を付けて ささいな言葉 思いやり
チロ

傘ねかせ ふれないように 急ぎ足
服部ハツ義

二次会で ノンアルお酌し おこられる
ひとりりでプリキユア

「これでいい」 よりも嬉しい 「これがいい」
ろみ

絵手紙で ホームの母に 思いやり
林洋子

思いやり
ボランティアの輪 被災地に
リトルカレ

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
 〒509-5192 (住所不要) ☐ koho@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線185) / ☎ FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

1月1日号の投稿募集
 お題は「初夢」です (1人1句)。
 締め切りは12月14日(金)です。



わたしのほやねさん


私は結婚して初めてこの地域で暮らすことになったので、土地勘もなく、買い物一つするにも右往左往する毎日を過ごしていました。夫婦二人で暮らしているうちは何とかなったのですが、子どもが生まれるとそうはいきませんでした。自分のことなら手を抜いても、「この子に関して妥協はダメだ」と常に張り詰めた気持ちで生活していました。

そんな暮らしにストレスを感じ始めていた頃、偶然公園で出会った女性がいました。「こんにちは。お子さんいくつ？」優しい笑顔で語り掛ける彼女も幼い子を抱えています。「この子は私の孫よ。娘が働いているから日中は私が面倒を見ているの。だけど分からないことばかりでもう大変」。話を聞いていると彼女自身も3人の子を育てたお母さんだったのですが、「そんな大昔のことは忘れたわ」と、大きな声で笑います。そんなやり取りが心地よく、それから毎日のように話すようになりました。

彼女は近くの病院や幼稚園、お薦めの店から町のイベントまで、何も知らない私に耳寄りな情報を丁寧に教えてくれました。ときには「一緒に行こうか」と誘ってくれることも。たまに私が子育ての悩みを相談すると、かつての自分の経験と、現在進行形の孫育てが絶妙にミックスされたアドバイスが返ってくるのです。それで気持ちが和らぐことが何度あったことか。

知らない土地。初めての子育て。不安で仕方なかった私が、初めて頼りにすることができたママ友が彼女でした。そして、私にとっての「ほやねさん」なのかなと思います。

募集




掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
 住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
 〒509-5192 (住所不要) ☐ machisui@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線186) / ☎ FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

ペンネーム ゆきんこ (土岐津町)